

## 2022年度 学部(火曜5限)／二部(火曜6限) 研究指導(中嶋ゼミ)3年

### 発表担当

講義回数	講義日	発表者	リアクション件名*
Lec01	4月12日	なし	なし
Lec02	4月19日	森田・高尾	22-0419_Introduction
Lec03	4月26日	竹村・瀧山	22-0426_TwoForces
Lec04	5月10日	新居田・今出	22-0510_Developed
Lec05	5月17日	三宅・山口	22-0517_Developing
Lec06	5月24日	北條・阿多	22-0524_Economics
Lec07	5月31日	寺地・小林	22-0531_FemaleWorkers
Lec08	6月7日	村上・共田	22-0607_SeniorWorkers
Lec09	6月14日	森田・高尾	22-0614_Migration
Lec10	6月21日	竹村・瀧山	22-0621_Savings
Lec11	6月28日	新居田・今出	22-0628_Technology
Lec12	7月5日	三宅・山口	22-0705_Business1
Lec13	7月12日	北條・阿多	22-0712_Business2
Lec14	7月19日	寺地・小林	22-0719_Business3
Lec15	7月26日	3・4回生縦会(就活報告会)	
Lec01	9月27日	なし	なし
Lec02	10月4日	森田・高尾	22-1004_Fiscal1
Lec03	10月11日	瀧山・新居田	22-1011_Fiscal2
Lec04	10月18日	三宅・北條	22-1018_Fiscal3
Lec05	10月25日	メットライフ・グローバル人材講座(第1回) 金融機関・保険業界のグローバル展開とメットライフ	
Lec06	11月1日	阿多・安藤	22-1101_WLB1
Lec07	11月8日	村上・清水	22-1108_WLB2
Lec08	11月15日	メットライフ・グローバル人材講座(第2回) グローバルとローカルのマーケットに応じた商品及び販売戦略	
Lec09	11月22日	塚本・森田	22-1122_Depopulation1
Lec10	11月29日	高尾・瀧山	22-1129_Depopulation2
Lec11	12月6日	新居田・三宅	22-1206_Depopulation3
Lec12	12月13日	メットライフ・グローバル人材講座(第3回) 人事戦略と必要な人材——STEM、多様性、キャリア形成	
Lec13	1月10日	北條・阿多・安藤	22-0110_Asia1
Lec14	1月17日	村上・清水・塚本	22-0117_Asia2
Lec15	1月24日	休講→補講として12月中旬の週末にビジネス・プレゼン大会	
	2月中旬	ゼミ合宿(コロナの収束次第)	

\*綴りは、全て半角英数。ハイフンとアンダーバーに注意。

## リーディング課題

### Lecture 1: 4/12/2022 Introduction to the Seminar

ゼミ概要の説明。

### Lecture 2: 4/19/2022 Introduction to the Challenge of Global Aging

Reading Assignments:

- *A Special Report on Aging Populations, The Economist*, June 25, 2009.  
<http://www.economist.com/node/13888045>

上記の特集号の中から以下4つの記事が必修。その他4つはオプション。

1. “A slow-burning fuse”
2. “Suffer the little children”
3. “A world of Methuselahs”
4. “Into the unknown”

References:

- 「老いる世界」『週刊エコノミスト』(2008.7.15), p.18–33.
- 中嶋圭介「地球高齢化時代」『3・11で現実化した「成長の限界」が日本を再生する』小学館クリエイティブ(2011), p. 69–92.
- Richard Jackson, “The Impact of an Aging Society,” presentation at the public policy forum co-sponsored by the Rockefeller Institute and the Albany Guardian Society, April 13, 2011. <https://www.youtube.com/watch?v=J9z-1vUwRRs&nohtml5=False>

### Lecture 3: 4/26/2022 Two Forces behind the Age Wave: Falling Fertility Rate and Rising Longevity

Reading Assignments:

- *The Graying of the Great Powers* (CSIS, 2008), Chapter 2, “A Closer Look at the Drivers,” pp. 45-59. (Life Expectancy のセクションの終わりまで)

Notes:

以下のセクションについては、少し専門的知識が必要です(クラス中に解説します)ので、飛ばして読んで OK。今回は、“demographic transition”(人口転換)、“demographic dividend”(人口ボーナス)、“replacement rate (level)”(人口置換水準)、“timing shift (effect)”(タイミング効果)、“demographic momentum”(人口モメンタム)などが、理解しておくべきキーワード。

(1) p. 46, 3 段落目 “In this report---” から p.47, 1 段落目まで (...to cope with the consequences.)

(2) p. 50, 2 段落目 “In calculating the current-year fertility rate...” から p. 51, 1 段落目まで (...to be happening anywhere.)

References:

- 国立社会保障・人口問題研究所『日本の人口減少社会を読み解く』中央法規出版(2008), 2, 3, 6 章

### Lecture 4: 5/10/2022 A Tour of the Developed World

Reading Assignments:

- *The Graying of the Great Powers* (CSIS, 2008), Chapter 2, “A Tour of the Developed World,” pp. 38–45.
- 加藤和久『8000万人社会の衝撃—地方消滅から日本消滅へ』祥伝社(2016), 「第1章 8000万人社会の到来」, pp.13–63.

Notes: CSIS の先進世界の地域分けの定義は、p. 205 の表を参照。今回のポイントは、1) 先進地域の人口動態トレンドを理解すること、2) 日本の人口動態の相対的な特徴を知ること。

References:

- 国立社会保障・人口問題研究所『日本の人口減少社会を読み解く』(2008) 1, 2, 3, 6 章
- 中嶋圭介「地域別人口動態指標」(2008)

## Lecture 5: 5/17/2022 A Tour of the Developing World

Reading Assignments:

- *The Graying of the Great Powers* (CSIS, 2008), Chapter 4, “A Tour of the Developing World,” pp. 162–183.
- 大泉 啓一郎『老いてゆくアジア—繁栄の構図が変わるとき』中公新書(2007), 「第1章アジアで進む少子高齢化」, pp.3–39.

Notes: CSIS の途上世界の地域分けの定義は、p. 205 の表を参照。ポイントは、1) 先進世界との違い、2) 途上世界内での違い、3) 特に BRICS など新興国の動向。

References:

- 国立社会保障・人口問題研究所『日本の人口減少社会を読み解く』(2008), 1, 2, 3, 6 章
- 中嶋圭介「地域別人口動態指標」(2008)
- Robert Kunzig, “Population: 7 Billion,” *National Geographic*, January 2011.  
<http://ngm.nationalgeographic.com/2011/01/seven-billion/kunzig-text>
- World Population: 7 Billion, and Counting,” France 24, November 2, 2011. (Part One) (Part Two)  
<http://www.france24.com/en/20111031-debate-World-Population-7-billion-and-counting/>  
<http://www.france24.com/en/20111031-debate-World-Population-7-billion-and-counting-part2>

## Lecture 6: 5/24/2022 Demography and Economy (1): Population Economics

Reading Assignments:

- 加藤久和(2001)『人口経済学入門』日本評論社「序章 本書を読むための基礎知識」 pp.1–19
- 加藤久和(2007)『人口経済学』日経文庫「第 1–5 章」 pp.13–149

References:

- 国立社会保障・人口問題研究所 (2008) 『日本の人口減少社会を読み解く』「第 8 章 少子高齢化・人口減少の社会経済的影響」 pp.148–155
- 加藤久和(2016)『8000万人社会の衝撃—地方消滅から日本消滅へ』「第 2 章 これからも成長は可能か」 pp.90–117
- 吉川洋(2016)『人口と日本経済』中公新書
- 吉川洋・八田達夫 編著(2017)『「エイジノミクス」で日本は蘇る—高齢社会の成長戦略』NHK 出版新書

## Lecture 7: 5/31/2022 Demography and Economy (2): Shrinking Workforce and Female Workers

### Reading Assignments:

- Goldman Sachs『ウーマノミクス 5.0:20年目の検証と提言』(2019.4.16)[短縮版]  
<https://www.goldmansachs.com/japan/our-thinking/pages/Womenomics5.0.html>
- 岩田一政・日本経済研究センター編(2014)『人口回復—出生率1.8を実現する戦略シナリオ』第5章 女性のオランダ並みの活躍 pp.115-148

### References:

- Jonathan Woetzel et al., *The Power of Parity: Advancing Women's Equality in Asia Pacific* (McKinsey Global Institute, April 2018).  
<https://www.mckinsey.com/featured-insights/gender-equality/the-power-of-parity-advancing-womens-equality-in-asia-pacific>
- 武石恵美子「ワーク・ライフ・バランス実現への課題—国際比較調査からの示唆」藤田昌久・吉川洋 編著『少子高齢化の下での経済活力』第8章, pp.245-289

## Lecture 8: 6/7/2022 Demography and Economy (3): Shrinking Workforce and Senior Workers

### Reading Assignments:

- 清家篤(2002)『労働経済』「第10章 高齢者雇用の経済分析」pp.252-281
- 八代尚宏(1999)『少子・高齢化の経済学』「第8章 高齢者就業と「65歳現役社会」」pp.141-155
- 労働政策研究・研修機構編(2017)『人口減少社会における高齢者雇用』「序章:高齢者雇用の現状と課題」pp.5-42

Notes: 年金制度は財政問題のところでも詳しく扱う。分からないところを質問として整理しておくくらいにして、ここではあまり時間をかけ過ぎないように。焦点は、高齢者労働力の活用です。最近の動きとして、2013年4月1日施行の高年齢者雇用安定法改正の内容とその後の動向、残された課題について押さえておくこと。

### References:

- 清家篤(2002)『労働経済』「第2章 労働供給」pp.27-65, 「第8章 経済の構造変化と雇用制度」pp.199-224
- OECD(2006) *Live Longer, Work Longer*
- OECD(2018)『高齢社会の雇用政策—生涯を通じたより良い働き方に向けて:日本(概要と評価・提言)』

## Lecture 9: 6/14/2022 Demography and Economy (4): Shrinking Workforce and International Migration

### Reading Assignments:

- ベンジャミン・パウエル(2016)『移民の経済学』「第2章 国際労働移動の経済効果」pp.13-45
- 小井戸彰宏編(2017)『移民受入の国際社会学』  
「第11章 日本 I 高度外国人材受入政策の限界と可能性—日本型雇用システムと企業の役割期待」pp.279-309  
「第12章 日本 II 外国人選別政策の展開—進行する選別的排除」pp.310-336
- 岩田一政・日本経済研究センター編(2014)『人口回復—出生率1.8を実現する戦略シナリオ』「第4章 外国人の戦力化—留学から移民へ」pp.97-114

References:

- 「移民という選択肢—人口減ニッポンの救世主か」日経ヴェリタス(2014.4.20) pp.1-4.
- *A Special Report on Migration, The Economist*, January 5, 2008.  
<http://www.economist.com/node/10286197>
  1. “Open up”
  2. “Of bedsheets and bison grass vodka”
  3. “Circulate or integrate”

## Lecture 10: 6/21/2022 Demography and Economy (5): Savings & Investment

Reading Assignments:

- 国立社会保障・人口問題研究所 (2008) 『日本の人口減少社会を読み解く』「第8章 少子高齢化・人口減少の社会経済的影響」p.156-162
- 加藤久和 (2007) 『人口経済学』「第5章 人口変動とマクロ経済」p.130-137
- Jackson and Howe, *The Graying of the Great Powers*, pp.97-108.

## Lecture 11: 6/28/2022 Demography and Economy (6): Technology (Productivity Improvement)

Reading Assignments:

- 原田泰・鈴木準 (2005) 『人口減少社会は怖くない』「第6章 生産性を上げよう」p.123-150
- 加藤久和 (2007) 『人口経済学』「第5章 人口変動とマクロ経済」p.137-144
- 藻谷浩介 (2010) 『デフレの正体——経済は「人口の波」で動く』「第7講 「人口減少は生産性上昇で補える」という思い込みが対処を遅らせる」p.142-174
- Jackson and Howe, *The Graying of the Great Powers*, pp.108-112.
- 野村総合研究所 「“2030年”から日本を考える、“今”から2030年の日本に備える。」News Release (2015.12.2) [https://www.nri.com/-/media/Corporate/jp/Files/PDF/news/newsrelease/cc/2015/151202\\_1.pdf](https://www.nri.com/-/media/Corporate/jp/Files/PDF/news/newsrelease/cc/2015/151202_1.pdf)
- カール・ベネディクト・フレイ、マイケル A. オズボーン「日本におけるコンピューター化と仕事の未来」野村総合研究所(2015) <https://www.nri.com/jp/journal/2017/0503>
- 三菱UFJリサーチ&コンサルティング「IoT・ビッグデータ・AI等が雇用・労働に与える影響に関する研究会 報告書」(2017.3) <https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11602000-Shokugyouanteikyoku-Koyouseisakuka/0000166533.pdf>

## Lecture 12: 7/5/2022 Demography & Business (1)

Reading Assignments:

- 電通シニアプロジェクト編著(2014)『超高齢社会マーケティング』ダイヤモンド社  
第1部 高齢者市場の全体像を掴む  
第1章「これまでの延長で考えると失敗する！」pp. 28-41  
第2章「年齢ステージ別の意識変化」pp. 42-78  
第3章「高齢者は何を、なぜ、どう買っているのか？」pp. 79-95  
第4章「タイプ別高齢者へのアプローチ法はこれだ」pp. 96-119
- 中嶋圭介(2015)「人口動態変化とビジネス戦略」  
(パワポスライド。ゼミの時に解説しますので眺めておいてください。)

References:

- 電通シニアプロジェクト編著(2007)『団塊マーケティング』

- [基礎] 前田信弘・弘兼憲史(2009)『知識ゼロからのマーケティング入門』幻冬舎
- [基礎] 村田裕之(2004)『シニアビジネス―「多様化市場」で成功する10の鉄則』ダイヤモンド社
- 情報列車編(2007)『シニアビジネス業界がわかる』技術評論社
- [応用] George Magnus, *The Age of Aging: How Demographics are Changing the Global Economy and Our World* (2009).
- [応用] ポール・ウォーレス(2001)『人口ピラミッドがひっくり返るとき―高齢化社会の経済新ルール』草思社

### Lecture 13: 7/12/2022 Demography & Business (2)

#### Reading Assignments:

- 電通シニアプロジェクト編著(2014)『超高齢社会マーケティング』ダイヤモンド社  
第2部 攻略の切り口を設定する  
第5章「自分ゴト化」 pp. 122-130  
第6章「キモチ年齢・カラダ年齢」 pp. 131-140  
第7章「時間消費」 pp. 141-149  
第8章「多死社会」 pp. 150-155  
第9章「おひとりさま」 pp. 156-162  
第10章「なじみとこだわり」 pp. 163-169  
第11章「納得コミュニケーション」 pp. 170-175  
第12章「第3の場所」 pp. 176-183

### Lecture 14: 7/19/2022 Demography & Business (3)

#### Reading Assignments:

- 電通シニアプロジェクト編著(2014)『超高齢社会マーケティング』ダイヤモンド社  
第3部 マーケティングを実践する  
第13章「生活行動調査」 pp. 186-209  
第14章「商品企画」 pp. 210-216  
第15章「広告表現」 pp. 217-227  
第16章「店づくり」 pp. 228-238  
第17章「商品パッケージ」 pp. 239-250
- 日本経済調査協議会『人口減少時代の企業経営』(長坂委員会提言・報告書発表)  
(2008.3) <https://www.nikkeicho.or.jp/result/nagasaka/>  
(人口高齢化がマクロ経済とビジネスに与える影響の両方がカバーされています。長いので、後半の各業界の事例研究は、好きなどころをかいつまんで読んで下さい。)

### Lecture 15: 7/26/2022 3・4回生縦会(就活報告会)



## 【後期授業】

### Lecture 1: 9/27/2022 後期ゼミ・ガイダンス

### Lecture 2: 10/4/2022 Demography & Fiscal Challenge (1)

#### Reading Assignments:

- 井出英策 (2017)『財政から読み解く日本社会～君たちの未来のために』岩波ジュニア新書  
第1章「財政のレンズをとおして社会を透視しよう」  
第2章「小さな政府はどのようにつくられたか」  
第3章「成長しなければ不安になる社会」  
第4章「公共投資にたよった日本社会の限界」  
第6章「税の痛みが大きな社会をつくりかえる」
- 加藤久和 (2016)『8000万人社会の衝撃～地方消滅から日本消滅へ』祥伝社  
第4章「危機にある財政と社会保障」 pp.175-231  
第5章4節「財政と社会保障制度の改革」 pp.260-276

#### References:

- 井出英策 (2017)『財政から読み解く日本社会～君たちの未来のために』岩波ジュニア新書  
第5章「柔軟で厚みのある社会をささえる教育」  
第7章「君たちが「君たちの次の世代」とつながるために」

#### Notes:

井出(2017)は「財政」への入門、流し読みでOK(財政について学んだ経験の無い方は、この際、少しじっくりと当たられてもよいでしょう)。加藤(2016)は、財政の総論も含まれていますが、各論として人口高齢化の直接的な影響を受ける社会保障制度への影響についてより詳しく書かれています。加藤(2016)のほうを、より注意して読み込んでください。

### Lecture 3: 10/11/2022 Demography & Fiscal Challenge (2): Public Pension

#### Reading Assignments:

- 鈴木亘 (2010a)『年金は本当にもらえるのか?』ちくま新書
- 鈴木亘 (2010b)『社会保障の「不都合な真実」～子育て・医療・年金を経済学で考える～』日本経済新聞出版社  
はじめに  
第1章「社会保障の「不都合な真実」」 pp.1-29  
第4章「年金は本当に大丈夫なのか」 pp.99-132

#### References:

- 【応用】鈴木亘 (2012)『年金問題は解決できる!～積立方式移行による抜本改革～』日本経済新聞出版社
- 【応用】駒村康平 編 (2009)『年金を選択する～参加インセンティブから考える～』慶応義塾大学出版会
- 【応用】小塩隆士・田近英治・府川哲夫 (2014)『日本の社会保障政策～課題と改革～』東京大学出版会
- 【応用】西沢和彦 (2011)『税と社会保障の抜本改革』日本経済新聞出版社
- 【医療・介護】鈴木亘 (2010b)『社会保障の「不都合な真実」～子育て・医療・年金を経済学で考える～』日本経済新聞出版社  
第5章「介護難民はなくせるか」 pp.133-162  
第6章「医療は誰が支えるか」 pp.163-195

Notes:

鈴木(2010a)は、日本の公的年金制度、或いは公的年金問題への入門書です。流し読みでOK(年金について学んだ経験の無い方は、この際、少しじっくりと当たられてもよいでしょう)。鈴木(2010b)は、内容的に重複するところもありますが、より詳しく書かれています。鈴木(2010b)のほうを、より注意して読み込んでください。

## Lecture 4: 10/18/2022 Demography & Fiscal Challenge (3): Private Pension

Reading Assignments:

- 野尻哲史(2017)『「英国流」資産形成アイデアに学ぶ』日本経済新聞出版社  
序章「老後難民の意味」 pp.15-30  
第1章「貯蓄から投資へ」はなぜ成功しなかったのか」 pp.31-46  
第2章「全ての働く人が資産形成する時代に」 pp.47-102  
第3章「資産形成への新しいアプローチ」 pp.103-130

References:

- 野尻哲史(2017)『「英国流」資産形成アイデアに学ぶ』日本経済新聞出版社  
第4章「セグメントに合ったメッセージを」 pp.131-163  
第6章「金融リテラシー」 pp.191-229
- 三菱UFJリサーチ&コンサルティング・新しい私的年金制度に関する研究会(2018.12)「超高齢社会における我が国の高齢期所得保障の再構築～私的な備えを拡充するための3つの提言～」
- 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(2018.1)「私的な資産形成に関する将来予測・政策シミュレーション分析」
- 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(2018.1)「iDeCoをはじめとした私的な資産形成をどう進めるか?～高齢期の所得保障政策の今後に向けた実態分析～」

## Lecture 5: 10/25/2022 メットライフ・グローバル人材育成講座(第1回)

「金融機関・保険業界のグローバル展開とメットライフ」

講師:前中 康浩氏(メットライフ・執行役員・経営企画部長・リーズビジネスマネジメント部長)

Reading Assignments: *To be announced.*

## Lecture 6: 11/1/2022 Work-Life Balance (1)

Reading Assignments:

- 筒井淳也(2015)『仕事と家族～日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか～』中公新書  
第1章「日本はどこにいるのか?」 pp.1-30  
第2章「なぜ出生率は低下したのか?」 pp.31-76  
第3章「女性の社会進出と「日本的な働き方」」 pp.77-120  
第4章「お手本になる国はあるのか?」 pp.121-160

References:

- 佐藤博樹・武石恵美子(2004)『男性の育児休暇～社員のニーズ、会社のメリット～』中公新書
- 中村東吾(2017)『誰が「働き方改革」を邪魔するのか』光文社新書

## Lecture 7: 11/8/2022 Work-Life Balance (2)

Reading Assignments:

- 阿部正浩 編(2016)『少子化は止められるか?～政策課題と今後のあり方～』有斐閣  
第1章「政府はどのような少子化対策を行ってきたのか?」 pp.21-45  
第2章「子育てと仕事の非両立が少子化を進めたのか?」 pp.47-73



第4章「子育てする企業」の特徴は？」 pp.91-107

- 星敦士(2018.1)「希望する結婚・出産の実現による出生数維持のための方策と展望」『都市政策』第170号 pp.37-46

**Lecture 8: 11/15/2022 メットライフ・グローバル人材育成講座(第2回)**

「グローバルとローカルのマーケットに応じた商品及び販売戦略——成熟市場日本+成長戦略上重要な他国市場について」

講師:メットライフ社内で人選中(初回同様、幹部クラスの方を派遣していただく予定)

Reading Assignments: *To be announced.*

**Lecture 9: 11/22/2022 Depopulation (1)**

Reading Assignments:

- 加藤久和(2016)『8000万人社会の衝撃～地方消滅から日本消滅へ』祥伝社  
第3章「東京一極集中と地方創生」 pp.119-174

References:

- 増田寛也(2014)『地方消滅～東京一極集中が招く人口急減～』中公新書

**Lecture 10: 11/29/2022 Depopulation (2)**

Reading Assignments:

- 増田寛也(2014)『地方消滅～東京一極集中が招く人口急減～』中公新書  
序章「人口減少社会への警鐘」 pp.1-10 (*skim*)  
第1章「東京一極集中と地方創生」 pp.119-174 (*skim*)  
第2章「求められる国家戦略」 pp.37-46  
第3章「東京一極集中に歯止めをかける」 pp.47-68  
第4章「国民の「希望」をかなえる」 pp.69-93  
第6章「地域が活きる6モデル」 pp.125-139
- 田村秀(2018)『地方都市の持続可能性～「東京の一人勝ち」を超えて～』ちくま新書  
第5章「人口減少時代に生き残る都市の条件」 pp.219-260

**Lecture 11: 12/6/2022 Depopulation (3)**

Reading Assignments:

- 神山典士(2017)『成功する里山ビジネス～ダウンシフトという選択～』角川新書

References:

- 平田オリザ(2016)『下り坂をそろそろと下る』講談社現代新書
- 横石知二(2015)『学者は語れない儲かる里山資本テクニク』SB新書
- 枝廣淳子(2018)『地元経済を創りなおすー分析・診断・対策』岩波新書

**Lecture 12: 12/13/2022 メットライフ・グローバル人材育成講座(第3回)**

「人事戦略と必要な人材——STEM、多様性、キャリア形成」

講師:メットライフ社内で人選中(初回同様、幹部クラスの方を派遣していただく予定)

Reading Assignments: *To be announced.*

## Lecture 13: 1/10/2023 Aging Asia

### Reading Assignments:

- 大泉啓一郎(2007)『老いてゆくアジア～繁栄の構図が変わるとき～』中公新書

### References:

- 小峰隆夫・日本経済研究センター編(2007)『超長期予測～老いるアジア～』日本経済新聞出版社
- Richard Jackson and Keisuke Nakashima, *China's Long March to Retirement Reform: The Graying of the Middle Kingdom Revisited* (CSIS, April 2009).
- Neil Howe, Richard Jackson, and Keisuke Nakashima, *The Aging of Korea: Demographics and Retirement Policy in the Land of the Morning Calm* (CSIS, March 2007).
- Richard Jackson, Tobias Peter, and Neil Howe, *Balancing Tradition and Modernity: The Future of Retirement in East Asia* (CSIS, July 2012).

## Lecture 14: 1/17/2023 Aging Asia

### Reading Assignments:

- 大泉啓一郎(2011)『消費するアジア～新興国市場の可能性と不安～』中公新書

## Demography × Business Presentation Competition

### Lecture 15 (1/24/2023) 補講分を使ってプレゼン大会(12月中旬の週末を予定)

前期末に3回シリーズで見てきた「人口高齢化とビジネス戦略」を締め括るに当たって、プレゼン大会を行います。各自、自分の好きな業界、商品・サービス市場を選び、リサーチをして下さい。

- (1)人口動態変化がどのようなビジネス環境変化をもたらし、結果どのような課題が生じているのか。
- (2)これに対して経営者はどのような対策を講じてきたのか。
- (3)1～2を踏まえて、既存の対策を評価し、改善策を論じて下さい。

持ち時間:15分(12分のプレゼン+質疑応答3分)

評価:内容(25点)+発表技術(10点)+スライド資料(5点)=合計40点

成績点については、中嶋の評価を100%とします。

但し、ゼミ内の表彰のための評価については、「ゼミ生の評価平均点」:「中嶋の評価点」=50%:50%で集計します。